

# 実行力を備え、卒業後も成長し続ける学生を養成

中部大学学長 山下 興亜氏

**本誌** 中部大学は七〇年以上の歴史を有し、「不言実行、あてになる人間」を建学の精神としていますね。

**山下** 本学は一九六四年に中部工業大学として開学、一九八四年に現校名に名称変更を行いました。その前身は一九二八年に設置された名古屋第一工学校（現・中部大学第一高等学校）です。創立者は現在の名古屋工業大学である名古屋高等工業学校の教授だった三浦幸平先生です。

三浦先生は名古屋第一工学校の創立に際し、「わたしは学校をつくるのなら、実行力のある人間をつくりたい。実行してはじめて物事は成就するのだ、ということを建学の精神にしよう」と考えました。不言実行といっても、ただがむしやらにやることではありません。他人のためにやる『あてになる人間』という意味をそれにつけ加えました。不言実行といっても、ものを言わないというのではありません。口だけで何も実行しないことがいけないということです。思うことを行為にあらわすことによつて、はじめて人間の価値ができる、という「ことです」と述べています。本学は、この建学の精神を信条とし、豊かな教養、自立心と公益心、国際的

な視野、専門的能力と実行力を備えた学生の養成を行っています。

**本誌** スタートは工学の専門教育を行う単科大学でしたが。

**山下** 開学当初は工科系の大学として「モノづくりに携わる人づくり」を行っていましたが、一九八〇年代からは経営情報学部や国際関係学部、人文学部を設置、「社会制度や文化を造る人づくり」に取り組み始めました。そして、二二世紀に入って応用生物学部や生命健康科学部を新設

「生活や健康を造る人づくり」、さらに人間の成長・発達を対象とした「人のための人づくり」に向けて幼児、児童教育学科からなる現代教育学部を設置し、現在では人文学、現代教育学、国際関係学、経営情報学、工学、応用生物学、生命健康科学の七学部一九学科に加え、大学院六研究科教育学研究科は今年四月開設一五専攻、学生数二万名強の総合大学に成長しています。

## ワンキャンパスに 全学部全学科集結

**本誌** 全学生が愛知県春日井市のキャンパスで学んでいますね。

**山下** 一つのキャンパスに全学生

が集うことで、総合大学の良さが活かせると思います。総合大学でも学部ごとにキャンパスが分散していても、そのメリットは半減してしまいます。本学のようにワンキャンパスに全学部全学科、大学院が集結していれば、学生はさまざまな価値観を持つ人達に触れることができます。これは学生に限ったことなく、教員や職員も同じで、全員がお互いに刺激しながら成長しています。

**本誌** 知識創造教育で創造力のある学生の育成を目指していますね。

**山下** 現在、社会が必要とされているのは自発的に考え、新しい価値を生み出す力です。そのためには単に情報としての知識を詰め込むのではなく、自分自身の知を磨き上げ、そこから新しい知見や価値を見出すことです。

私はこれまでミツバチの研究に親しんできました。一つの巣に暮らすミツバチの合計体重は3キロ程度ですが、年間約二〇〇キロもの蜜と花粉を採集します。この秘密は高度な情報伝達システムで、花畑を見つけたミツバチはダンスでその方向と距離を伝え、それを学習した仲間が大挙して花畑に行き、効率的に蜜と花



山下興亜（やました・おきつぐ）氏

1940年1月生まれ。1962年・京都工芸繊維大学繊維学部卒業。1964年・名古屋大学大学院農学研究科博士課程中退。1971年・農学博士（名古屋大学）。1976年・名古屋大学農学部助教授。1990年・同教授。1993年・同農学部長。1998年・名古屋大学副総長。2001年・中部大学副学長。2005年・中部大学学長に就任。日本昆虫科学連合代表（2010年～）。紫綬褒章受章（2001年）。国際昆虫学賞受賞（2008年）。  
 中部大学の教育理念／「不言実行、あてになる人間」を信条。学部／工学部、経営情報学部、国際関係学部、人文学部、応用生物学部、生命健康科学部、現代教育学部。  
 学生数／10,114名（2011.5.1現在）。

粉を集めてきます。ところが全体の約一〇％は花畑の方向と距離を覚えておらず、花畑の方向とは関係なく自由に飛び回り、新しい花畑を見つけて戻ってきます。この一〇％は知識伝達という面では劣っていますが、現状にとられない行動力で価値を生み出しており、ミツバチ社会の存続に必要なのです。これまでのように学生が覚えたことを教員が評価し優劣をつけるという知識伝達の教育では、こうした新しい価値を生み出すことはできません。本学では創造力育成のための大学改革に取り組み、知識伝達型から知識創造型教育

への転換を進め、創造力に満ちた学生の育成を図っています。  
**本誌** 学生に成長力、学習力の向上を期待していますが。  
**山下** 本学の学生には、学問を通して学ぶことの大切さや楽しさを身につけ、世界に羽ばたくことのできる人間に育って欲しいと思っっています。そのためには、自分で筋道を立てて考え行動することが大切で、学生には到達度ではなく成長力、学力ではなく学習力の向上を期待しています。大学の四年間で成長力を身につけた人は、卒業後も成長し続けます。成長にとって大事なものは自分で

決めた目標を持つことです。私は毎年、新入生に講義を行います。必ず「ザインツプ物語の「ウサギとカメ」の話」をします。カメが勝ったのはウサギのことなど気にとめず、「ゴールにたどり着く」という明確な目標を持っていくからです。一方、ウサギはカメと自分を比べて安心してしまったから負けたのです。目標は人から与えられるものではありません。誰かとの比較の中で行動を起こすのではなく、自分自身の目標を立て、それに向かって突き進むことが大事なのです。今の時代は短いタームで世の中が変化しており、こうした変

化についていけるように学生一人ひとりが目標を持つ教育がますます大切になっていきます。本学では一年次から実施される少人数の基礎ゼミや学生自らが課題を発見し解決していく工学部の創成科目など、四年間でしっかり目標設定を行える教育体制を整えています。

**本誌** スペシャリストとジェネラリストの両要素を備えた人材の育成も目指していますね。

**山下** 本学は育てるべき人材をスペシャライズド・ジェネラリストという言葉で表現しています。例えば、技術者として働くにしても経営やマネジメントに関する知識は不可欠で、逆にマネジメントする側として働く場合にもITなどの専門知識は必要になります。本学では実学重視のカリキュラム、多彩な教養教育科目群知識と興味が広がる副専攻など特色ある教育システムを用意し、高い専門性を持つスペシャリストと、全体をトータルに把握する力を持つジェネラリスト、その両方の要素をバランスよく兼ね備えた人材の育成を図っており、これを実現するための魅力ある授業づくりを教職員が一丸となって取り組んでいます。